

# Economic Indicators

発表日：2018年10月1日(月)

## 一般会計税収(2018年8月末)

～上振れ修正分は補正財源に充当へ～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
副主任エコノミスト 星野 卓也 (TEL:03-5221-4547)

### 税収の増加傾向が続く

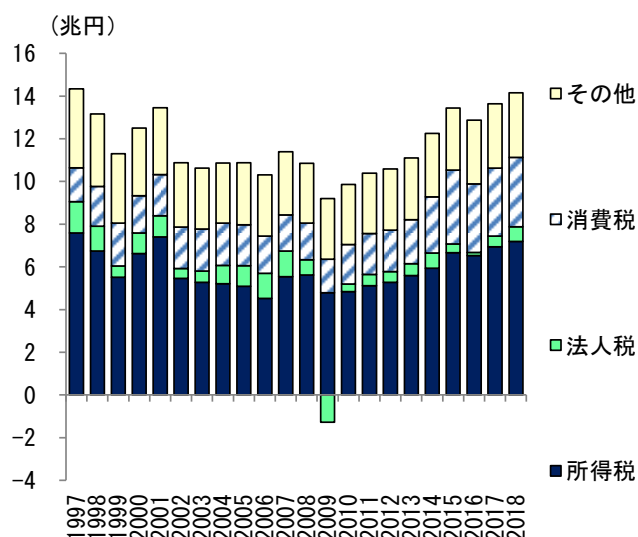
財務省が公表した2018年8月末までの累計税収額(2018年度分)は14.2兆円(前年比+4.0%)と増加した。税収全体を季節調整値でみると振れが大きい展開となっているが、均せば増加傾向にある。

8月末までの累計税収について税目別にみると、所得税は7.2兆円(同+3.5%)と増加した。配当所得や給与所得の増加が背景にあると考えられる。その他、消費税は3.3兆円(同+2.8%)、法人税は0.7兆円(同+37.9%)とともに増加している。法人税はこの時点では殆ど計上されないため、増加幅の大きさは割り引いてみる必要があるが、基本的には企業業績改善を映じて増加しているとの認識で良いだろう。

2018年度の税収は現時点で59.1兆円(2017年度決算58.8兆円)と見込まれている。ただし、これは2017年度の税収が57.7兆円との見込みをベースに作成された値だ。足もとの増勢に鑑みても、上振れ余地があると言え、政府は年末にかけての予算編成において税収見積りの方上修正を行うだろう。過去の予算編成を振り返ると、この上方修正分は度々補正予算の財源として充当されている。

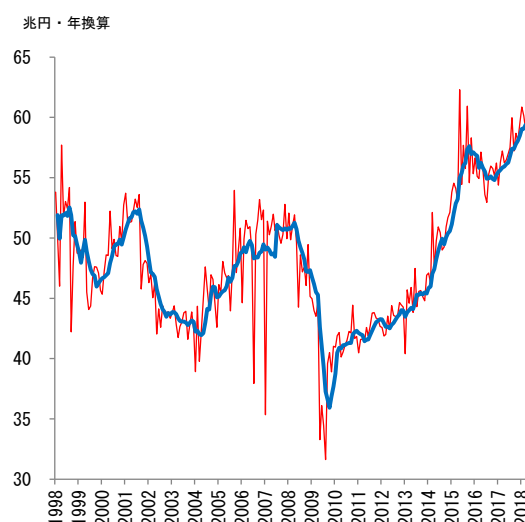
報道等によれば、今年度は災害対策(一次)と国土強靱化対策(二次)の2度に亘って補正予算が編成されるとのこと。第一次補正は建設国債で財源を確保、第二次補正予算の財源には税収上振れ分などが用いられよう。今年の予算編成のポイントとフレーム予測については、近日中にレポートを執筆予定なので、そちらで解説を行いたい。

資料1. 税収(8月末時点累計値)



(資料1 出所) 財務省「租税及び印紙収入、収入額調」

資料2. 税収(季節調整値)の推移



(資料2 出所) 同上。季節調整値は第一生命経済研究所。太線は6ヶ月移動平均。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。